

# Economic Monitor

## 米新車販売は6月も減少続くが日本車には回復の兆し

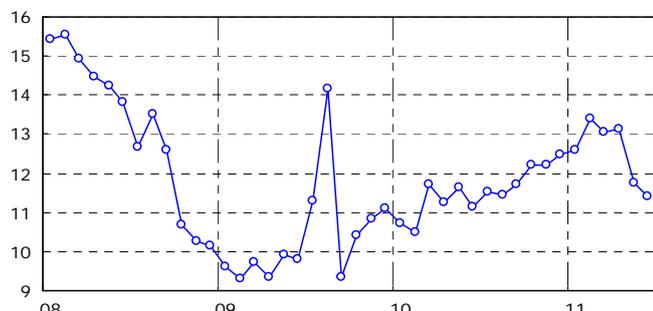
米 Autodata が7月1日に公表した6月の新車販売台数は前年比7.1%と、5月4.0%からプラス圏に復帰した。しかし、季調値で見ると、6月は前月比2.9%と5月10.4%に続き、2ヶ月連続の減少を記録している。

サプライチェーン復旧に伴う日本での5月以降の完成車及び部品の増産、そして米国向け輸出の増加が日本側の5月統計で確認され、かつ米国の自動車在庫が5月に増加していたことから、6月の米新車販売は前月比で反転すると予想していた。そのため、6月の2ヶ月連続減少は予想外である。但し、後述するようにメーカー別販売では反発が示唆されており、加えて、金融危機やCash for Clunkers（自動車購入支援措置）などによるイレギュラーな変動で季節調整が不安定となっていることも踏まえれば、6月の新車販売は横ばい程度と幅をもって見ておくべきであろう。

6月も減少が続いた結果、4～6月期の米新車販売は前期比年率で25.3%もの大幅減少となり、これは4～6月期の個人消費並びに実質GDPを大きく押し下げる。GDP統計の自動車関連消費と新車販売では概念が一致しないため、本来は単純比較できないが（1～3月期は新車販売が前期比年率24.7%の急増に対し、GDPの自動車関連消費支出は9.9%の小幅増加に留まった）、仮に新車販売の伸び25.3%を単純に当てはめれば、4～6月期の実質GDP成長率は年率0.8%Pt程度も下押しされることになる。

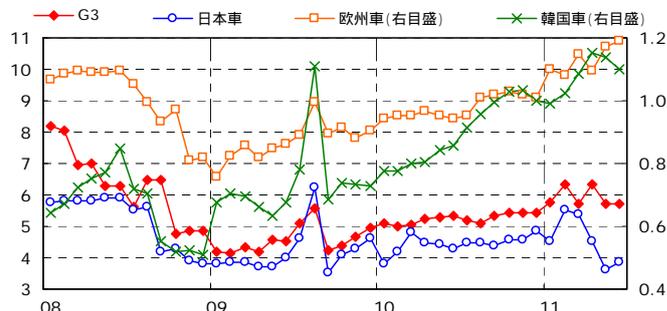
一方、メーカー別販売動向を見ると、サプライチェーン復旧の好影響が確認できる。日本メーカーの販売台数は5月前年比22.4%が6月は11.5%へと減少幅が半減し、当社試算の季節調整値では前月比6.0%（5月20.2%）と4ヶ月ぶりの増加へ転じた。供給制約の緩和により販売減少に歯止めがかかった模様である。他を見ても韓国車こそ減少したものの（5月前月比1.3% 6月3.4%）、G3（5月9.6% 6月0.1%）や欧州車（5月6.9% 6月1.8%）は概ね底堅く推移しており、日本車に購入客が再シフトし他の販売が落ち込んだとは判断されない<sup>1</sup>。7～9月期には、サプライチェーン復旧の好影響が更に広がり、新車販売の増加に繋がる見込みである。

### 米新車販売台数の推移（年率、百万台）



(出所)CEIC Data, Autodata

### 各国メーカー別販売台数の推移（年率、百万台）



(出所)Bloomberg

<sup>1</sup> G3、欧州車、韓国車、日本車に対して個別に季節調整を施した上で合算すると新車販売台数は前月比1.8%増加する。こうした加法不整合性も季節調整が不安定なことを示唆している。